

かじたま 鯉中魂



学級通信
鯉沢中
3年生
2019年6月20日
No. 7
もうすぐ地区陸上



道徳「足袋の季節」



読み物について

今から100年近く前の北海道でのお話です。少年には、真冬に足袋を買うお金もありません。ある日、少年は大福もちを売るおばあさんから釣り銭をごまかしてしまいます。



それから...

おばあさんの前に立つことができない

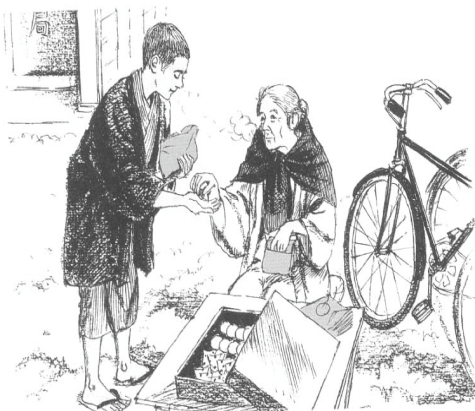
少年の心を苦しめた...

貧しい少年への同情、大福もちを売るおばあさんへの思い、釣り銭をごまかす少年の複雑な心境、お詫びしようとやってきた小樽でおばあさんの死を知る絶望……。 「おばあさんはごまかしを知っていて励ましてくれたのだ」と都合の良い解釈をしようとしても、少年は、長い間自分の行為を許せないでいます。少年が、おばあさんの死という結末に呆然とする姿に、私の心が痛みました。

なんとか今日まで、くじけずにやり通せたのは、あのあばあさんのちらっとわたしを見たあのときの目、「ふんばりなさいよ。」と言ってくれたあのことばによって、ささえられてきたからだと思う。

(中略)

あのおばあさんが、わたしにくれた心を、今度はわたしがだれかにさしあげなければならないと思っている。



その後の人生で、自分に恥じない生き方を目指した著者（大人になった少年）に、人間としての誇りや気高さを感じます。



雪の降る北海道 小樽運河（現在）

◆ もし、生きている「おばあさん」に「少年」が再会できたら、

「少年」と「おばあさん」、どんな会話をしたと思いますか？

少：「おばあさん、こんにちば」、お：「まあ、あのときの。ん・・・果物くれるのかい」、少：「はい、差し入れです。あと謝りたいことがあって・・・」、お：「何かひどいことされたかな？」、少：「四十銭のことですが・・・私がうそを・・・」、お：「何の話かね？私は知らないよ」

おばあさんは何も語らない。少年に変な気を遣わせないようにするため。

少年が正直に話し、謝ると、おばあさんは「よくふんばったね」と言った。「よくふんばった」というのは、その後職業を転々とした少年に、「よくここまで生きることができたね」という意味。その言葉はまた少年の心を「じ～ん」とさせた。最後に少年は「ありがとうございます」と言った。

出会った瞬間におばあさんは「よくふんばったね」と言って、少年を出迎えてくれた。少年はおばあさんがすべてを知っていることに気づき、「ありがとう」とだけ伝えて、お礼に果物かごを置いて、「また、ふんばってくるね」と言って帰った。

6/10(月) いきもの係(青奈さん)の活躍で、ヤゴがトンボに脱皮しました

そして、尾身先生が進路コーナーの掲示をつくって下さいました!!!



6/12(水) 理科の授業で、感動的な『学び合い』が起こりました!!!



『右の図のように、「Newtonのゆりかご」の、左側3つの金属球を上げ、残りの2つに衝突させる。その実験結果のようになることを、「力学的エネルギーの保存」が成り立っていることをもとに、説明できる。』というハイレベルな課題を一人残らず全員が達成できました。

